

氏名	橘 元見
授与した学位	博 士
専攻分野の名称	医 学
学位授与番号	博甲第 5 6 6 6 号
学位授与の日付	平成30年3月23日
学位授与の要件	医歯薬学総合研究科 生体制御科学専攻 (学位規則第4条第1項該当)
学位論文題目	Exercise stress test reveals ineligibility for subcutaneous implantable cardioverter defibrillator in patients with Brugada syndrome (運動負荷試験はBrugada症候群患者の隠れたS-ICD不適合性を明らかにする)
論文審査委員	教授 笠原真悟 教授 成瀬恵治 教授 大月審一

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

完全皮下植え込み型除細動器 (S-ICD) の Brugada 症候群 (BrS) への適応は明らかではない。我々は、BrS 患者の S-ICD 適合率と通常 12 誘導心電図で S-ICD 不適合の予測因子を検討した。

2015 年 12 月から 2016 年 12 月までに岡山大学病院循環器内科を受診した連続 110 人の BrS 患者に S-ICD 用の心電図と通常 12 誘導心電図を行い、S-ICD 適合率と 12 誘導心電図で S-ICD 不適合因子を検討した。S-ICD 適合となった 45 人にトレッドミル負荷心電図を行い、検査中に新たに S-ICD 不適合となる患者を評価した。

110 人中 89 人が安静時は S-ICD 適合であり、通常 12 誘導心電図では完全右脚ブロックが S-ICD 不適合の有意な予測因子であった。24%の患者は運動負荷試験中に新たに S-ICD 不適合に変化した。

安静時には適合であっても運動により S-ICD 不適合となる可能性があり、S-ICD 植え込み前に運動負荷試験を行う必要があると考えられた。

論 文 審 査 結 果 の 要 旨

研究の背景と目的：皮下植え込み型除細動器 (S-ICD) の Brugada 症候群への適応は明らかでない。この症候群に対する S-ICD の適合率と不適合立の予測を検討する事を目的とした。

研究の成果:本研究では、岡山大学循環器内科を受診した連続 110 名の Brugada 症候群の患者に適合率を測定した。安静時に適合が認められても、24%に運動時に不適合が認められ、その予測として通常心電図での完全右脚ブロックが優位な所見であった。

予備審査における疑問点や問題点：チャンネル病としての Brugada 症候群は様々な視点から改名すべき点が多く、今回の運動時の心電図変化における知見は価値ある業績と認める。

よって、本研究者は博士 (医学) の学位を得る資格があると認める。